

【12月3日（水）】

8時30分にチャーターしたバスにて全員で展示会場へ向けて出発。展示会は10時からなので、9時30分には到着する見込み。道路がすいている時間であれば、20分もあれば着く距離ですが、渋滞を考慮した時間で出発。ジャカルタでは常に渋滞を意識した出発を心がけないといけません。道路交通事情は経済にも大きな影響を及ぼしていると思います。インドネシアでは、「車の中で年を取る」と言われる程、渋滞に縛られている時間が長いようです。インフラ整備が出来れば、経済成長はもっと加速するような気がしました。



今朝は比較的道路も空いていて、9時20分に到着できました。展示会場は昨日と違い



落ち着いた雰囲気になりました。相模原市ブースではインドネシア語の通訳を3名依頼しました。依頼するまでは良かったのですが、通訳の方々の入館証の依頼をするのを忘れていました。これでは、通訳の方々は中に入ることができません。急遽、ビジター登録の手続きをすることとなりましたが、受付窓口が混雑しており、許可書の発行に1時間程要してしまいました。通訳の方々、大変失礼を致しました。

日本の展示会では開催時刻になると、全館に放送が流れ、スタートの合図がありますが、今回の展示会では何の放送も無く、いつの間にか始まっていました。入口から比較的距離のあるところだったので、最初の見学者が来場したのは、10時半を過ぎていました。通訳の方々も、入場できたのが10時半近くだったので、無理の無い話しです。

通訳の方には4日間お願いするので、各企業様の製品説明を聞いていただきました。皆さん熱心に製品説明を聞いて下さいました。企業側としても日本語で説明できるので、非常に良かったと思います。お世話になる通訳の方には一応手土産を持参しました。お土産として一番人気（スマステーション情報）のフリクションボールにしました。インドネシアにもフリクションボールペンはあるようなのですが、色が数色しかなく、カラフルなものは重宝されるようです。実際、非常に喜んでいただけました。食べ物も考えましたが、ハラールの件もあるので、インドネシアに食べ物をお土産にするには、少し注意が必要かもしれません。

午後には、地元日本人向けに発行している「じゃかるた新聞」の記者、アリ・レイモンド氏が取材に来て下さいました。展示会開催の3週間程前に、電話にて取材は受けていて、展示会当日にお邪魔したいとの約束をしていました。日本企業はジェットロブースを利用する機会が多いのに、大阪市と相模原市が単独で出展することに興味を持っていただいていたようです。一番興味を示していたのは、「なぜ、インドネシアなのか？」という点だったようです。経済成長も著しく、日本の高齢化社会と違い、人口構造が綺麗な三角形をしているので、様々な需要が見込めることから、



と回答させていただきました。その後も、一社ずつ丁寧にヒアリングをして行かれました。日本語も多少は出来る方でしたが、途中からインドネシア語と英語になってしまったので、通訳の方をお願いすることとなりました。私の語学力では、対応しきれませんでした。

初日の展示会も無事に終了し、撤収することとしました。展示会場終了時は、他の出展者も終了するので、出口での混雑は避けられない状況でした。ジャカルタでの足といえば、タクシーやバイク、バジャイ（三輪自動車タクシー）くらいしかありません。道路は渋滞しているので、タクシー乗り場にタクシーが無ければ、次にいつ来るか、全く分からない状況です。タクシー待ちをしている方々を尻目に、我々はチャーターしたバスでホテルに帰ることが出来ました。バスをチャーターしていたのは、大正解でした。

夕飯の場所は予め決めており、出展者の方々には任意での参加を募っていましたが、皆様それぞれ行きたいお店があるようで、結局は事務局のみでレストランに行くことになりました。今日も一日お疲れ様でした。普段と環境が違うので、体調管理には充分注意が必要です。